

平戸小 学校だより 9月号

平戸

平成30年8月31日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町542番地
Tel.045-821-2329



子どもの成長を たし算でみる

校長 菅原 久忠

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。今年は、夏休みに入る前より大変な暑さでしたので、長期の休みに入る子どもたちの体調が気がかりでした。そのため、余計にほっとした気持ちになりました。

私は、夏休み中に、学区の各地域の夏祭りに参加させていただきました。地域の行事ということもあり多くの子どもたちが、普段、学校では見せないような自然な姿で楽しんでいて、こちらまでうれしくなりました。会場に行くと、多くの子どもたちが「こんにちは」「こんばんは」をはじめとして「校長先生、来てくれたの!」「校長先生、これから踊るから見ていてね!」と声をかけてくれました。平戸の子どもたちの素直で伸びやかな姿を見て、とても幸せな気持ちになりました。



様々な機会を通して、子どもたちが育っていく環境が豊富な平戸は素晴らしいと改めて思います。

さて、育てるといえば、少しさかのぼる運動会の折の話ですが、運動会を見にいらしたご家族の方から次のような言葉をいただいたことが心に残っています。

『子どもたちの最後まであきらめずに頑張っている姿に胸がいっぱいになりました。ダンスが苦手だと言っていた孫の学年になったときはドキドキしましたが、楽しそうに踊っている様子を見て、とてもうれしくなりました。子どもは、小さなことでも自信につながり育っていくのだと思います。先生方にもこういう機会をつくってもらっていて孫は幸せだと思います。』

私は、このお話を伺って、この子は、お家でたくさん、ほめられているだろうと思いました。きっと、この子は、次も頑張ってみようという気持ちをもつことができたと思います。

以前、我が家でも思春期にさしかかった子どもたちの様子から、出産当時の様子を撮ったビデオを見て、親の関わりを振り返ったことがありました。自分の子どもが赤ちゃんの頃は、それこそ「寝返りができるようになった」「はいはいした」「一言、言えるようになった」…というように、日々の変化に、ほんの小さなことでもできるようになったと大喜びし、一日一日を慈しむように成長を見守ってきたと思います。ところが、子どもが大きくなるにつれて、いつの間にか「あれはできていない」「どうしてわからないのか」「いつまでもどうして…」という見方が増えているなど反省したことがあります。

子どもが赤ちゃんの頃は、プラス思考の「たし算」的な見方でいっぱいだったのに、公園デビューに始まり、少しずつ集団との関わりが強くなるにつれ、マイナス思考の否定的な見方が多くなっているのではと考えたこともありました。

子どもたちの成長には、個々の成長のスピードや道筋があります。子どもたちをじっと見つめ、「今日は、いつもよりこんなことができた(わかった)」「いつもより楽しかった」など、日々のささやかな小さな変化や成長に喜び、「次はこれを頑張ってみよう」という気持ちをもてるよう励ましていくことが大切だと改めて思いました。

実りの秋に向けて学校が始まりましたが、学校でも一人ひとりの小さな一歩を引き出し、認め、自信をつけていく「たし算」の見方を大切にしていきたいと考えています。